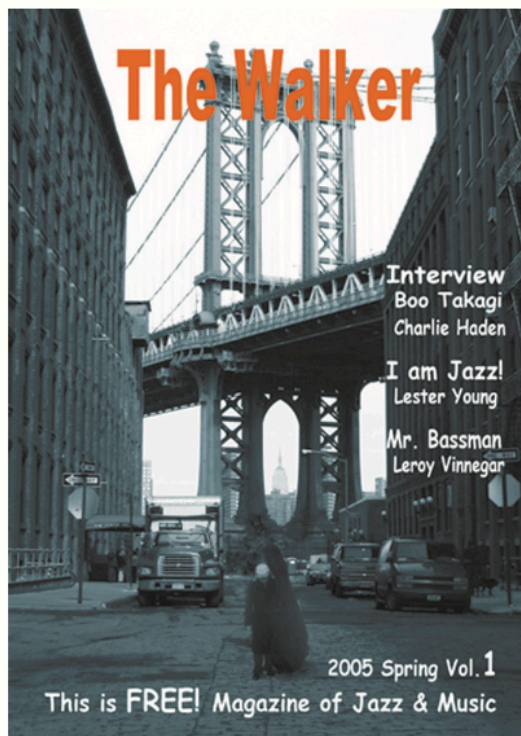


Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



The Walker's Vol.1 (April 2005)

《ワンス・アポン・ア・タイム・イン・マンハッタン》

今回はお世話になった人たちとの別れの話…。昨年6月発行の本誌「Vol.33」のこのコーナーで、自分がニューヨークに渡った時、マンハッタンに入って最初に訪れた店で、その後の4年間のニューヨーク生活で大変お世話になった恩人の方の店『東京レストラン』が、2013年4月18日をもって閉店した話をさせてもらった。

この夏には、自分が4年間ウェイターとして働かせてもらった店『KODAMA SUSHI (旧 KODAMA RESTAURANT)』(以下『KODAMA』)が、5月頃に韓国人のオーナーに売却されたという知らせを聞いた。

当時一緒に働いていた仲間で、たくさんの迷惑をかけて、大変お世話になった人たちもこの夏までに店を去り、みんなから“おやじさん”と呼ばれ、自分にとっては今でも頭が上がらないほどお世話になったオーナーも、『KODAMA』を手放し、日本に引き上げることを決めたようだ。

自分にとっては思い出があり過ぎる場所で、大学卒業直後から大学生活と同じ年月の丸4年間お世話になった。数々の思い出、また、ウェイター&ウェイトレス仲間や従業員の人たちだけでなく、常連さんをはじめ、『KODAMA』を通じて知り合ったたくさんの人たちとの縁を頂いたことを考えると、大学生活の3倍、12年間分くらいの経験をさせてもらった。

創刊号から前号「Vol.37」まで、毎号29頁下に『KODAMA』のお店の情報を掲載させてもらっていたのは、数え切れない程のオーダーミスを犯しながらも、首を切らずに堪えて頂き、丸4年間雇い続けてくれた“おやじさん”への恩返し気持だった。寂しい限りだが、“おやじさん”の年齢ももう80歳ということを考えると、致し方ない決断だったのだろうし、自分などが口を挟むことができるような立場でもなく、“おやじさん”や仲間たちが働いている間に『KODAMA』に顔を出すことが出来なかったことは悔やまれるが、今はただただ感謝の気持ちでいっぱい。

またこの夏、当時ウェイターとして一緒に働き、大変お世話になった方の親友で、長年ニューヨークで暮らしていた日本人女性の訃報を聞いた…。ニューヨークにいた頃に何度か会わせてもらったが、その方の明るい笑顔は今でも記憶に残っている。元気で明るくて綺麗な方でもあり、ニューヨークで働き、ニューヨークでしっかりと自立されて、ニューヨークの街にもすっかり溶け込んでいるようなカッコいい女性という印象だった。あまりに突然で、早すぎる別れだが、自分にとってニューヨークの大切な思い出のひとつとして、その方の存在もずっと忘れないと思う。

マンハッタンに限らず、時代の流れと共に街の変化は避けることができず、歳を重ねるに連れて、新しい出会いも増える反面、暫く音信不通だった友人や知人の突然の訃報を耳にすることも、生きていれば避けられないことなのだろう。

本誌創刊号の表紙では、自分の大好きな映画『ワンス・アポン・ア・タイム・イン・アメリカ』をモチーフにさせてもらったが、あの映画に出てくる昔のニューヨークの街並みのように、いつまでも懐かしく、大切な思い出として、ニューヨークでお世話になった人たちのことや何気ないマンハッタンでの日常も一生忘れることはないと思う。